

平成30年度小松市立中海小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（8月提出）	取組の成果と課題（3月提出）
生徒指導 葛西	<p>&lt;児童理解を元にした積極的な生徒指導を行う&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解の会を定期的（月1回）に開催し、個や集団に応じた対応等の共通理解を図る。</li> <li>スクールカウンセラーと連携し、自己有用感を高めるグループエンカウンターを年間5回（1学期2回、2学期2回、3学期1回）行う。</li> <li>◎スクールポスト（意見箱）を活用し、児童を主体とした積極的な生徒指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議に合わせる形で児童理解の会を月に一回、定期的に開催し、気になる児童についての情報共有を行うことができた。</li> <li>自己有用感を高めるグループエンカウンターをどの学年も2回以上実施することができたが、スクールカウンセラーとの連携が難しい学年もあった。スクールカウンセラーの勤務日との日程調整に課題が残る。</li> <li>◎スクールポストを活用してくれた児童もいたが、まだ十分に周知されていない。設置の意図と使い方を改めて周知する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議に合わせる形で児童理解の会を月に一回、定期的に開催できた。さらに、会の初めに行うことで時間もしっかりと確保できた。</li> <li>自己有用感を高めるグループエンカウンターの実施において、研究のコミュニケーションタイムと連携するなどして、どの学年も年間の目標回数をクリアすることができた。「学校が楽しい」という児童の増加に向けて、グループエンカウンター以外の指標を模索してもよいのかもしれない。</li> <li>◎スクールポストを宣伝するビデオを流したが、活用する児童は増加しなかった。現状に満足している児童が多いと捉えることもできるが、広く児童の意見を集め、自治の精神を育てていきたい。</li> </ul>
特別支援教育 中橋	<p>&lt;困り感のある児童を把握し、その特性に応じた具体的な教育支援体制の充実をめざす&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間4回の支援全体会を計画に沿って実施し、情報の共有を図る。</li> <li>◎適切に支援員の配置計画をする。</li> <li>・計画的・継続的に関係機関と連携して対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解の会の開催に合わせて年間指導計画に沿って全体会を実施している。特別支援を要する児童に学校全体としてどう関わればよいのか、確認する場としている。</li> <li>支援員の配置は1年生を中心にして、特に必要な場合は希望を書ける用紙を用意した。しかし、支援員が1人なので、なかなか希望に沿えるよう配置できなかった。</li> <li>個別のケース会議は計画的にはできなかったが、適宜実施することができた。必要なときにケース会議をもち、外部機関とつながることができた。今後も保護者との連携を大切に、児童の支援体制を整えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解の会開催と合わせて、支援全体会を実施してきた。計画的に児童理解の会が設定されていることから、特別支援の必要な児童を学校全体で確認することができた。</li> <li>支援員の配置は1年生を中心に行い毎学期見直しをした。希望用紙を用意することで必要なときに配置を変更することができた。しかし、支援を必要とする児童が多いため、1人の支援員では対応しきれなかった。</li> <li>職員同士の声を掛け合いで、適宜個別のケース会議を実施することができた。特に2学期はより多くのケース会議をもち、外部機関ともつながり、その時の児童に合わせた対応を練ることができた。</li> </ul>
道徳教育 大野	<p>&lt;道徳の授業を中心に、教育活動全体を通して道徳教育の充実を目指す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいの明確化、中心発問の工夫、資料提示の工夫、板書の工夫、地域人材の招聘など、指導法を工夫した授業を、どの学年も学期に2回以上行う。</li> <li>◎教科連関を図る、教材教具や道徳ノートの活用を充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じた質問、挿絵以外の視覚教材等の活用、掲示物を利用して、児童の思考が流れやすい板書など、指導法を工夫した授業を行った。今後はよりねらいにせまる指導法を考え周知していきたい。</li> <li>道徳ノートに振り返りを毎回書き、コメントを返している学年が多い。今後は評価につながるようにより充実した道徳ノートの書き方を教員に広めていきたい。また、挿絵等の教材の整理を行いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚化を図るために特に資料の提示の仕方を工夫した。板書を意識し、工夫したという指導法が多かったため、職員間での交流や掲示等も今後していきたい。地域の人材を活かしたゲストティーチャーを招聘した授業が行えるように今年度中に内容項目と照らし合わせて適した人材を探したい。</li> <li>職員間で各学年の道徳ノートの交流を行った。それぞれの学年のノートを見ることで、高学年にいづくにつれての系統が分かった。今後より充実したものにしていきたい。挿絵等を入れる整理箱を活用することができた。</li> </ul>
読書教育 竹中	<p>&lt;読書の質の向上を図り、読書教育の充実を目指す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「本のとびら」「この本読もう」を活用し、様々なジャンルの本に触れ、読書の幅を広げる。</li> <li>◎おすすめ10冊の完読を目指す。</li> <li>◎教科連関図書を意識して行い、学習素材として図書教材を活かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートでは、88.5%の児童が読書を好きだと答えており、教員アンケートでも並行読書ができるように教室に準備するなど読書環境は整備されていると考えられる。</li> <li>しかし、保護者アンケートでは42.9%の親が家では読書をしていないと回答する親が多かった。読書を週末課題に設定するなど、家でも読書の習慣をつけられるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書の機会を確保するために、3年生から6年生までは、週末読書を宿題にし、読書の記録を書かせるようにした。その結果、保護者アンケートの結果で、読書していると回答した児童が前回よりも2.7%あがった。引き続き、週末に読書を推進していきたいと考える。</li> <li>一方で、読書を好きと答えている児童が1.6%減った。次年度は読書の楽しさを児童が感じられるような取り組みを考えていきたい。</li> <li>◎おすすめ読書を完読した児童には、賞状を給食時間に学校長からクラスのみんなの前で表彰をしてもらうことで、充実感をもてるようにした。</li> </ul>
保健健康教育 鳥居	<p>&lt;望ましい生活習慣等の定着を目指す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康チェックを毎週火曜日に行う。</li> <li>◎早寝早起きの取り組みを行い、できる児童を65%以上にする。</li> <li>・ミニ健康指導を毎学期1回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期最初に行った早寝チャレンジの取り組みでは、各学年達成率は50%前後であった。全校の半数以上が寝る時間が遅い。</li> <li>今年度の保健の目標として、早寝と姿勢について話したので、2学期からは児童保健委員会での取り組みを企画し、実施していきたい。取り組み期間中は改善がみられても、その後元の生活リズムに戻ってしまうことが多いので、継続的に実施していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康チェックを実施し、保護者の方に学期毎に返却して、児童の状態を知ってもらうことができた。</li> <li>第2回児童アンケートでは、76.2%の児童が早寝ができていないと答えており、第1回より6.4%減少。昨年度に比べると、6.9%増加している。しかし、児童保健委員会の取り組みを達成できた児童は40%前後であり、多くの児童が早寝は習慣づいていない。睡眠量だけでなく、質のよい睡眠をとることに重点をおいて指導していきたい。また、保護者の方への呼びかけや、保護者と児童が共に行うことができるような取り組みを行ってきたい。</li> <li>ミニ健康指導を毎学期1回実施することができた。児童の実態に合わせた内容で引き続き行っていきたい。</li> </ul>
体育教育 田上	<p>&lt;年間を通して体力向上の取組を推進する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎外遊び週間、縦割り遊びなど各種スポーツ行事を年間5回以上実施する。</li> <li>・スポチャレの40m、8の字に全クラス取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に外遊び週間と鉄棒集会、しっぽとり大会と3回のスポーツ行事を企画・実施した。鉄棒集会は、初めての試みで児童の鉄棒への意欲の高まりに繋がった。</li> <li>年度当初にスポチャレの提案と登録方法などを伝えたが、定期的な声掛けが足りなかった。40mは運動会のリレーの練習と併せて、8の字は、3学期のなわとび月間と併せて、また取り組めるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期は、運動会のほかに持久走大会に向けてのマラソンタイム、縦割りドッジボール大会などのスポーツ行事を企画・実施した。ただ、マット運動の意欲を高めるため、異学年で交流したり発表の場を設定したりする必要がある。</li> <li>8の字はなわとび月間と併せて取り組めたが、40mはあまり定着しなかった。体力テストの結果や取り組みやすさを考えて、スポチャレの取組種目の検討をしていきたい。また、すぐに実施できるように体育館の環境整備も行っていきたい。</li> </ul>
安全教育 作田	<p>&lt;自他の安全を確保できる児童の育成を目指す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を実施する中で高学年が低学年を支援する場面を取り入れる。</li> <li>防火扉や救助袋を使った実践的な避難訓練を実施する。</li> <li>◎安全に学校生活が過ごせるよう、児童が主体的に廊下を走らない取り組みを企画し、全校で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練では、低学年に譲ろうという、高学年の姿があった。2学期の休み時間の避難訓練において周りの低学年への支援について指導を行う。</li> <li>防火扉や救助袋を使った避難訓練は実施することができ、4年生、6年生の児童のこれからの防災意識を高める活動に繋がった。</li> <li>歩こうウィークの取り組み中は歩くことを児童同士が意識して行動出来ていた。取り組み期間が終わると走り出す児童が多かったことから、2学期以降も継続的に実施していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間を想定した避難訓練では、高学年が呼びかけ低学年を助けながら自分たちの身を守ろうとしていた。来年度は自分たちで考え避難する力を高めるため高学年では避難場所を自分たちで考え避難できるようにしていきたい。</li> <li>防火扉や救助袋を使った訓練を行うことができ、児童の防災意識を高めることができた。</li> <li>歩こうウィークの取り組み中も走る児童が多かった。安全な学校生活のため、歩かないといけないわけを発信する。また、児童を主体とした走らないことの大切さを考えられる取り組みを引き続き行っていく。</li> </ul>
食に関する教育 中野	<p>&lt;学校における食育の充実を目指す&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食の時間、家庭科をはじめとする各教科、総合的な学習を通して、栄養教諭を中心とした食育授業を年間各学年1回行う。</li> <li>◎学校給食における地場産物の活用、地域の生産者や生産に関する情報を児童に伝達する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,2,3年生は実態に応じた食育授業を行った。2学期以降も4,5,6年生それぞれの実態に合った食育授業を実施していきたい。</li> <li>1学期の間、給食時間のちよこっくイズを通して地場産物を使っていることや生産に関する情報を児童に伝達してきたが、食への関心を持っている児童とそうでない児童の差が大きい。2学期以降も、児童を主体に情報を発信し、児童の食に対する関心を高めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年の実態に応じた食育授業を行うことで、児童は食に対する興味関心を持つことができた。学年が上がるにつれて、児童の実態も変わるので、実態を把握した上での食育授業を今後も実施できると良い。</li> <li>給食時間のちよこっくイズを通して地場産物の活用や生産に関する情報を伝達することができた。今後は、委員会活動などを通して児童主体の取り組みを増やし、より児童の食に対する興味関心を高めていきたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方、業務の改善については、教員という仕事は大変で特殊であるという理解を示していただいた。働き方改革の主旨、心と体が健康であることが仕事への効果にもつながること等を理解してもらったり、成果の上がないものを思い切ってやめること、組織で対応していくことなどの取り組みを説明した。</li> <li>グループエンカウンターやスクールポストの質問があった。内容について説明し、2学期以降はより効果的に取り組むためにも、児童に主旨をしっかりと伝え、よりよい活動となるように意識していきたい。</li> <li>異学年交流では6年生と1年生はしているが、他の学年でも、5、6年生が合宿等で不在の場合は4年生が、1、2、3年生での活動では3年生が、1、2年生の活動では2年生が活躍できるので、そのような場の設定を積極的にしていこうと考えている。また、校区の子ども園との交流もとてもよかったので、連絡を取り合っていくことが共通理解された。</li> <li>特別支援教育では、一人ひとりに応じた支援ができるよう、支援員さんの配置や専門機関とつながっていくことを理解していただき、2学期はより充実した体制づくりをしていきたいことを話した。</li> <li>暑さ対策で、夏休みプール開放の時にとったスクールバスの活用はよかった。これからもいろんな対策に備えて考えていかなければいけないことを確認した。</li> <li>「たてわり活動はどのくらい行っているか」の質問があった。たてわり遠足や体育的行事、そうじ、遊びなど、いろいろな活動でつながっていて、自己肯定感を上げていくためにも有効であることを説明した。中海こども園長から、こども園でもたてわり活動をたくさん行っている、町自体がそんな環境だと感じている。他の委員さんからも親同士がつながっているのでどんどん推進してほしいという意見であった。</li> <li>「いじめの問題はないのか」という質問では、素早く発見し、組織的に対応していることを説明した。</li> <li>働き方、業務の改善については、8月の会の時同様にご理解をいただいた。</li> <li>本校の児童の特徴について話が出た。メンタル面で弱いところ、算数の活用力が弱いことを説明した。算数の対応策として、学校全体で図をかいて思考の手助けとなるように指導していることを伝えた。</li> <li>プラスの練習後のスクールバスは利用できないかという意見が出たため、検討してみる。</li> </ul>		

必要資料 帳簿の整備	確認	点検項目
		自己評価・教師アンケート
		達成率
		自己評価・教師アンケート
		達成率
		自己評価・教師アンケート
		具体的な実践
		達成率
		達成率
		自己評価・教師アンケート
		自己評価・教師アンケート
		しゅれんじ達成率
		達成率
		自己評価・教師アンケート
		達成率
		自己評価・教師アンケート
		自己評価・教師アンケート



































